

活力と交流でひらく元気なふるさとづくりプロジェクトチーム キックオフ会議

日時：令和7年4月25日(金)15:00～

場所：第4応接室

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
 - ・活力と交流でひらく元気なふるさとづくりプロジェクトチームについて
 - ・意見交換
- 4 閉会

■出席者名簿

	統轄監	中原 美由紀	(チーム長)
商工労働部	部長	池田 一彦	(幹事部局)
輝く鳥取創造本部	本部長	遠藤 俊樹	
総務部	部長	山根 茂幸	
地域社会振興部	スポーツ振興局長	田中 将	
農林水産部	部長	中島 和彦	
教育委員会	次長	横山 順一	

1

活力と交流でひらく元気なふるさとづくりプロジェクトチーム

3つのサブテーマを設け、構成部局が連携して、対応策を検討・実施

未来を支える
人材の育成・定着

鳥取で「働く」・「活躍する」
人づくり

にぎわいを創出する
域外交流の拡大

交流で「にぎわう」
地域づくり

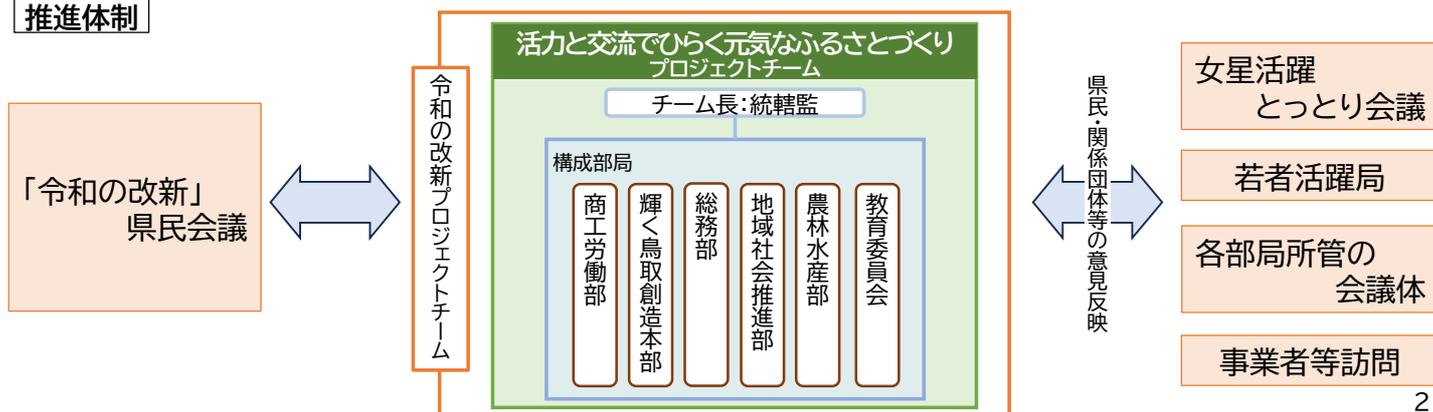
激動を乗り越える
地域産業の強化

「変化」に柔軟に対応できる
産業づくり

目指す姿

地域の強み・資源を最大限活用し、人の活動と流入の活発化により、地域を元気にする

推進体制



2

プロジェクトチームの方向性

未来を支える 人材の育成・定着	にぎわいを創出する 域外交流の拡大	激動を乗り越える 地域産業の強化
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 時代の変化に対応した人への投資 ▶ 教育界と産業界の連携による若い力の県内定着 ▶ 若い力を育てる教育体制の強化 ▶ 農林水産業の担い手づくり ▶ 学校と産業界が連携した産業人材の育成 ▶ ふるさと鳥取を思い、支える人づくり ▶ 世界にはばたくアスリートの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域の魅力を活かした人流の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ①大阪・関西万博の機会を積極活用 ②国際航空路線の拡充による誘客促進 ③まんが王国ととりの魅力発信 ④鳥取県立美術館を核とした新たな人の流れを創出 ⑤とっとり弥生の王国の魅力・知名度向上 ⑥食パラダイス鳥取県の更なる展開 ⑦産業の未来を国内外に発信 ▶ “スポーツ”による国内外との交流拡大 ▶ “文化”による地域のにぎわいづくり <ul style="list-style-type: none"> ①県民への文化芸術の裾野拡大 ②芸術家を呼び込み、地域の魅力づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 基盤産業・地場産業の成長の促進 ▶ 若者をひきつける未来型産業の挑戦 ▶ 若い力・新たな力で産業を創造 ▶ 地域連携や企業間連携で地域社会課題解決を推進 ▶ 海外や県外から高度・専門人材の呼び込み ▶ 外国人材を受け入れる生活環境の整備 ▶ 農業生産1千億円の達成
商工労働部・総務部・地域社会振興部・農林水産部・教育委員会	商工労働部・輝く鳥取創造本部・地域社会振興部・農林水産部	商工労働部・輝く鳥取創造本部・農林水産部

3

未来を支える「人材の育成・定着」①

現状	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 時代の変化に対応した人への投資／商工労働部 <ul style="list-style-type: none"> ● 生産年齢人口が減少する中、特に製造業・建設業では技術者の高齢化による技能の継承が課題。 ● 地域の良質な雇用創出に向けて、「地域活性化雇用創造プロジェクト」を進めているが、介護・福祉、ITなどあらゆる分野で人手不足・採用難が深刻化。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 時代の変化を捉えた職業訓練やリスキリングを推進するとともに、生成AI等を活用できるデジタル人材や観光人材などの高度人材の育成を産学官連携により強化する。 ● 企業・団体・自治体のコンソーシアムで、ライフスタイルに合わせて働きリモートワーカーの活動を推進する。 ● 高齢化する企業経営者の事業承継を地域や支援機関と連携してアトツギ育成を強化する。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 教育界と産業界の連携による若い力の県内定着／総務部 <ul style="list-style-type: none"> ● コロナウイルス感染症が広がって以降、県内高等教育機関の学生の県内就職率は低下。 ● 学生の県内就職・定着を推進するため、県内高等教育機関が県内企業等と連携して行う共同研究事業等、学生に県内企業を知ってもらう機会の創出支援を実施中。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和7年4月に設置された「地域未来共創センター」において、地域課題解決や学生目線の人材育成・地域定着への取組強化を図るため、県と連携し、大学のリソースを活用した地域課題解決への取り組み等を推進し、将来の担い手の育成に繋げる。（令和7年度の状況を踏まえ、来年度以降の内容を検討する）
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 若い力を育てる教育体制の強化／総務部・教育委員会 <ul style="list-style-type: none"> ● 全国で唯一、教育学部がなく、教員養成が不十分な状況。地元で教員を安定的に確保すべく、鳥取県ならではの体系的な仕組みの構築が必要。 <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年5月、鳥取大学、県、県教委等による参加した会議において、人口減少が急速に進む今日であるからこそ、地域を持続的に発展させることができる人材の育成は重要であり、地域連携・協働に強みを持つ地元出身の教員を、地元で養成することが重要であるとの相互理解が図られた。 ・令和7年4月22日、鳥取大学長、知事、県教委等が出席した会議において、今後の教員養成機能の強化に向けた仕組みづくりに向けた方針を協議。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 県、県教委、鳥大が連携して鳥取大学の入口(入学)から出口(鳥取県教員採用試験)までの一貫した鳥取県型教員養成プログラムを構築する。 ● 「地域教員希望枠」入学生に特化し、一次試験を免除する「特別選考」の新設に向けた検討(教育委員会)、奨学資金代理返還制度の創設(総務部)といった支援を実施する。

4

未来を支える「人材の育成・定着」②

現状	今後の方向性
➤ 農林水産業の担い手づくり／農林水産部	
<ul style="list-style-type: none"> ● 農林水産業者等の高齢化及び担い手不足が深刻化。 ● 担い手の生産基盤や経営規模拡大を支援してきた。 ● 県の主力園芸品目では、産地主体の就農サポート体制を整備する気運が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来の水田農業を支える多様な担い手の育成を図る。 ● スマート農業技術の導入などにより担い手の経営の効率化、生産力向上を強力に推進する。
➤ 学校と産業界が連携した産業人材の育成／教育委員会・農林水産部・商工労働部	
<ul style="list-style-type: none"> ● 県内専門高校定員充足率：約74% (R6.5.1現在) ● 高校卒業後就職を希望する者のうち県内就職希望率：78.9% (R7.2月) ● 就職率は向上してきているが、新規高卒就職者の早期離職率が若干高い。 ● キャリア教育が勤労観、職業観の育成に焦点が絞られ、社会的・職業的自立のために必要な基盤の育成が十分といえない。 ● 普通科高校の場合、上級学校への進学が多く、県外進学した多くの生徒が県内を就職先に選んでいない現状があり、地元企業を知る取組と地域社会を支える人材育成が必要。 ● 平成29年度より、将来の農林水産業を担う人材を育成する「スーパー農林水産業士制度」(72名認定)、令和4年度より、次世代ものづくり人材を育成する「スーパー工業士認定制度」(31名認定)を創設し、農林水産業の現場や工学系・情報電子系企業等に就職・進学。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大型商業施設等で県立高校の魅力を発信する出張体験入学イベント「出かける高校魅力発信」等を通して専門高校の魅力をPRする。 ● 普通学科の生徒も含めたインターンシップによる就業体験に加え、若者との交流などキャリア形成につながる活動にしていくとともに、学校と企業が生徒に身につけさせたい力を共有する場を提供する。 ● 教員対象の県内企業見学会の見学先(県内産業(企業))数を増やして様々な業態や時期とし、参加しやすいものとする。
➤ ふるさと鳥取を思い、支える人づくり／教育委員会	
<ul style="list-style-type: none"> ● 「ふるさとキャリア教育」をすべての施策の基軸とし、子どものころから、鳥取県に誇りと愛着を持ち、将来にわたりふるさと鳥取を思い、様々な場面でふるさと鳥取を支えていくことができるマインドを育成中。(鳥取県教育研究大会(ふるさとキャリアフェスティバル、鳥取県探求成果発表会)、ふるさとキャリア教育CMコンテスト、親子でおしごと体験ツアーなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ● ふるさとキャリア教育の進化・深化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとキャリア教育×PBLプロジェクト ・とっとりデジタル教材作成・活用 ● 児童生徒、保護者にふるさとキャリア教育を浸透させていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県教育研究大会において県民に周知

5

未来を支える「人材の育成・定着」③

現状	今後の方向性
➤ 世界にはばたくアスリートの育成／地域社会振興部	
<ul style="list-style-type: none"> ● 10年前から国内大会をはじめ、世界大会やオリ・パラを目指すジュニアアスリートを発掘して、トップアスリートの育成を目指す取組を県内の各競技団体と協力して実施中。 ● 社会人、大学生、高校生及び中学生になった当該事業の卒業生が、セーリング、ローイング、クライミング、自転車、ホッケー、空手、ボクシング等で、世界選手権等に出演して活躍を開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 県出身のトップアスリートが世界の舞台で活躍することで、次代を担う若者をはじめ多くの県民に夢や希望を与え、元気で活力のある地域づくりを推進する。 ● 鳥取県ゆかりのトップアスリートが、県内で継続して活動・活躍して、将来的には指導者としてジュニアアスリートを育成していく好循環を作っていくことが肝要であり、指導者やアスリートの県内企業等での雇用機会の創出などのため商工労働部との連携を図っていく。

6

にぎわいを創出する「域外交流の拡大」①

現状	今後の方向性
<p>▶ 地域の魅力を活かした人流の拡大／輝く鳥取創造本部・地域振興部・農林水産部・商工労働部</p>	
<p>① 大阪・関西万博の機会を積極活用(輝く鳥取創造本部)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪・関西万博を契機に国内外からの誘客につなげるため、「とっとりリアル・パピリオン」として、マンガや大自然、食など375の観光コンテンツをPR。また、SNS等による国内外への情報発信や、旅行会社等との連携による誘客促進に取り組んでいる。 ● 大阪・関西万博期間中に、ジャマイカや吉林省等の友好地域及びインド等新たな交流先との交流事業を実施予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪・関西万博会場をフックに、マンガや大自然、食などの本県の魅力を一体的に発信。さらなる誘客につなげる。 ● 体験型コンテンツ(アドベンチャー、食、文化など)の充実により、地域の「稼ぐ力」を向上し、地域社会・経済に好循環がもたらされる仕組みづくりを展開する。 ● 万博外交の推進により、各地域との繋がりを深化・発展させるとともに、観光・販路開拓・物流など各分野での連携に繋げていく。
<p>② 国際航空路線の拡充による誘客促進(輝く鳥取創造本部)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 米子香港便の運航再開(R6.10)、米子ソウル便の週5便化(R7.3)に続き、5/29には米子台北便が就航開始。 ● 一方で、米子上海便が未だ再開できていない状況で、さらなる誘客の多角化を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 上海便の早期運航再開、香港便、台北便の安定運航、ソウル便のデイリー化を実現するため、航空会社や旅行会社への働きかけやSNS等での発信を強化する。 ● 地元にも様々なチャンネルを通じて就航先の情報を発信するほか、訪日意欲が高まっている東南アジアなどからの県内空港へのチャーター便の就航を推進する。 → 青少年や民間団体、ビジネスでの交流・利用促進等により、交流人口の拡大、地域経済の活性化につなげる。
<p>③ まんが王国とっりの魅力発信(輝く鳥取創造本部)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 万博を契機としたまんが王国とっりのプロモーション、観光誘客。 ● 鳥取県立美術館と連携したまんが王国とっり展示、3か年に渡るまんが関連展示。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和9年に計画されている青山剛昌ふるさと館リニューアルと連携した観光誘客を展開する。 ● 水木しげる記念館、水木しげるロードと一体となった観光誘客、水木しげる生誕祭を開催する。 ● 映画「遙かな町へ」の公開と連携したプロモーション、観光誘客 ● 関係団体と連携したまんが王国とっりの深化を図る。(JR西日本、アニメツーリズム協会、日本マンガ学会、日本漫画家協会等)

7

にぎわいを創出する「域外交流の拡大」②

現状	今後の方向性
<p>④ 鳥取県立美術館を核とした新たな人の流れを創出(地域社会振興部)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● 県立美術館利用者20万人の目標(知事公約)達成に向けた域外からの誘客及び県内の機運醸成。 ● 開館を契機とした市内や圏域の回遊、滞在時間延長による動き(宿泊施設の整備、美術館と周辺施設を結ぶバスの運行など)による中部圏域や県全域での交流促進。 ● 魅力的な企画展の開催による集客とともに、コレクションの中核である県ゆかりの作家・作品の認知度・評価の向上によるリピーター拡大。 ● 都市圏メディア・WEB・SNS等による情報発信や、観光・旅行事業者への売込み。 ● 県民や学校と対話しながら鳥取方式のプログラムをつくるアートラーニング・ラボ(A.L.L)の推進及び全国への発信。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「まんが王国とっり」や「あいサポート運動」など本県の特徴を活かしたポップカルチャーや障がい者アートの展示など県の特徴、強み、施策など相乗効果を生むため各部局との連携を強化。 ● 周辺観光地・施設(白壁土蔵群・円形劇場等)を含む圏域魅力向上に向けた、輝く鳥取創造本部等との連携による周遊を促進する。(二次交通や周遊パス、関連イベント等) ● 万博を契機とした県外発信や誘客促進に向けた各部局との連携を図る。(首都圏メディア等の活用、旅行事業者等への売込み等) ● 文化や音楽、伝統など県民活動の発信に向けたひろまや県民ギャラリー等の活用促進する。(ユニークバニユール)
<p>⑤ とっとり弥生の王国の魅力・知名度向上(地域社会振興部)</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ● R6.3の青谷かみじち史跡公園開園を契機として、むきばんだとの2つの史跡公園を柱に掲げた『とっとり弥生の王国』のブランド確立に向け、各種情報発信、公園そのものの魅力向上により、知名度向上と集客拡大を図っているところ。 ● 出土人骨を基に制作した青谷弥生人復顔像は3体目女性復顔像が完成。これまでの2体を含め、青谷上寺地遺跡の特長や魅力を伝えるためのシンボリックな情報発信ツールとして活用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● アンケートや来園者分析等を基に、訪問先として選ばれるための磨き上げや、来園者数・滞在時間を延ばすための取組・工夫を行うつつ、着地型の誘客・観光施設として近隣観光施設などとのタイアップ誘客展開を輝く鳥取創造本部等との連携のもと進めるとともに、教育施設として歴史教育や学びの場としての付加価値も更に高めていく。 ● 令和7年度に新たに佐賀県(吉野ケ里遺跡)、岡山県(津島遺跡)と連携し、共同で弥生文化の魅力発信や調査研究を進めつつ、「弥生の御朱印巡り」(R6年度:1府15県:35遺跡38施設が参加)をさらに増加させ、他圏域との連携による「弥生の王国」のブランド確立、周遊促進を図っていく。 ● 輝く鳥取創造本部等との連携により、3体揃った青谷弥生人をマンガ化(コンテンツ化)し、より親しみやすいものとし、とっとり弥生の王国を紹介する動画に登場させたりするなど、弥生遺跡や弥生文化の魅力を多面的に発信することで県内外の誘客や交流の拡大に繋げる。

8

にぎわいを創出する「域外交流の拡大」③

現状	今後の方向性
⑥ 食パラダイス鳥取県の更なる展開(農林水産部)	
<ul style="list-style-type: none"> ● イベントへの出展やSNSを活用した情報発信により、鳥取県の食をPRしてきた。 ● 国際定期便で繋がる韓国、香港、台湾などアジア圏を基軸に、「食パラダイス鳥取県」の認知度向上と販路拡大の取組を行っている。 ● 円安や大阪・関西万博を契機に、日本全体でインバウンドがますます増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪・関西万博を契機にインド、ベトナム、欧州等の新しいマーケットへの販路拡大に向けた取組を進める。 ● 観光部局と連携し、鳥取県の観光と食の魅力を発信するなど、「食パラダイス鳥取県」の認知度向上を図り、観光誘客に繋げる。
⑦ 産業の未来を国内外に発信(商工労働部)	
<ul style="list-style-type: none"> ● 県内の優れた技術・製品や次世代産業参入の取組紹介、普段体験できない先端テクノロジー等を一堂に展示する、産学官連携の「とっとり産業未来フェス」を令和7年2月に開催。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪・関西万博の会場で産業展示や、とっとり産業未来フェスの継続実施で本県発の技術・製品等の発信、伝統産業などをグローバルにブランド化し、新たな付加価値の獲得につなげる。 ● 大阪・関西万博で来日する各国ビジネスミッション団へ本県産業・企業・製品等をPRし、外需を獲得を目指す。
▶ “スポーツ”による国内外との交流拡大/地域社会振興部	
<ul style="list-style-type: none"> ● 県内の優れたスポーツ環境であるJOC競技別強化センター(クライミング、セーリング)等を活用した国内チームや社会人・大学等による各種スポーツ合宿を誘致 ● 世界陸上東京大会のジャマイカ選手団、デフリンピック東京大会の韓国選手団及び国内バスケットボールチーム等の合宿を受入(予定) ● ワールドマスターズゲームズ2027関西の大会実施に向け、機運醸成や情報発信を実施 ※鳥取市:アーチェリー、湯梨浜町:グラウンド・ゴルフ、倉吉市:北栄町:自転車競技、米子市:柔道 	<ul style="list-style-type: none"> ● 国内外の合宿誘致を推進し、合宿等を契機とした観光や地域活性化などのスポーツツーリズムをはじめ、鳥取への定住や好きなスポーツに生涯携われるような環境を作り、トップアスリートを育てる好循環を創出。合宿の適地としての県の優れたスポーツ環境のPRのため、SNS等による情報発信等広報面等での工夫・協力を得ながら推進する。 ● 県民のスポーツへの関心や将来の交流人口の拡大、地域活性化のため、スポーツを通じた地域や生徒等との国際交流の促進のため観光部局や教育委員会と緊密に連携・協力を進める。 ● スポーツツーリズムを通じた地域振興、観光振興のため、国際定期便を利用した大会参加や、まんが・食・文化等の観光コンテンツの発信、旅行商品造成による大会参加後の観光周遊の仕組み作り等を進める上で、観光・文化関係部局と緊密に連携を図る。 ● 若者から高齢者まで幅広い層のボランティア等、県民一体となったホスピタリティの向上のため、若者・教育関係部局を含め部局を越えた機運醸成・おもてなし体制を構築する。

9

にぎわいを創出する「域外交流の拡大」④

現状	今後の方向性
▶ “文化”による地域のにぎわいづくり/地域社会振興部	
① 県民への文化芸術の裾野拡大	
<ul style="list-style-type: none"> ● 県総合芸術文化祭(とりアート)における美術館連携企画を実施 →とりアート事業において、美術館エリアの賑わい創出・文化振興に繋がる企画を展開 (倉吉未来中心において美術館企画展と県ゆかりの音楽家の連携による絵画・音楽のコラボ鑑賞イベント開催、美術館「ひろま」における誰でも参加でき楽しめるダンスパフォーマンス実施等) ● 美術館展示施設の活用による来場促進・文化活動の活性化 →県展等の展示会場として美術館を活用し、県民に身近な施設として来場を促すと共に文化活動者の意欲向上を促進 (県展、ジュニア県展、文化功労賞受賞者巡回展、県文化団体連合会による国際交流写真展等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 県総合芸術文化祭(とりアート)における美術館連携企画の実施 ・美術館及び隣接する倉吉未来中心をエリア一体的な文化芸術拠点と位置づけ、連携企画を継続展開する。 ・美術・音楽・舞踊のコラボレーション等、芸術の垣根を越えたアプローチを通じて文化芸術の幅広い魅力を発信する。 ● 美術館展示施設の活用による来場促進・文化活動の活性化 ・文化団体等とも連携して、美術館展示施設の積極的な活用を図り、文化活動者の意欲向上・活動活性化を推進する。 ・県展・ジュニア県展への出品や展示会場への来場について児童生徒への呼びかけのため教育委員会・学校と緊密に連携を図る。 ・福祉保健部と連携し「あいサポートアートとっとり展」等との相互の情報発信等を強化する。
② 芸術家を呼び込み、地域の魅力づくり	
<ul style="list-style-type: none"> ● 県出身学生等を含む県外アーティストの作品展示・発信 →新たな才能の発掘や県内外への発信に向け、とりアート事業において絵画・立体・インスタレーション作品等を県内外から公募・展示 ● 県外芸術家とコラボする地域アートイベントの支援・誘客促進 →県外芸術家と共に地域での作品制作や交流・展示等を行う多様なアートイベント開催を支援し、県内外の誘客・周遊を促進 ※今後各アート団体や観光関係者等と連携し、効果的な情報発信のあり方や周遊を促す仕掛け等を検討(各イベントの共通コンセプトの設定、イベント周遊マップ・モデルプラン作成、来場・周遊を促すSNSキャンペーンの展開等) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 県出身学生等を含む県外アーティストの作品展示・発信 ・文化団体・大学等と連携し、県外の学生やアーティストを呼び込み、県との繋がりや県民との交流を生み出す企画を継続して検討する。 ・商工労働部との連携により、より多くのアーティスト、クリエイター等の作品を募集したい。(例:「とっとりクリエイターズ・ビレッジ」関係者等への作品応募呼びかけ) ● 県外芸術家とコラボする地域アートイベントの支援・誘客促進 ・観光関係課や文化団体・施設、地域団体等と連携し、アートを通じた誘客・周遊促進とアート活動の振興・地域活性化の相乗効果を図る仕組み作りを検討する。 ・輝く鳥取創造本部・令和の改新戦略本部の協力、アイデアを得ながら、県内アートの発信強化・観光コンテンツ化・ツアー造成等を推進する。

10

激動を乗り越える「地域産業の強化」①

現状	今後の方向性
<p>➤ 基盤産業・地場産業の成長の促進／商工労働部</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 県内総生産・製造品出荷額の向上、雇用創出を図るため、県内企業の成長投資や経営革新、企業誘致による新規立地を促進して、高付加価値産業の集積・成長等を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ものづくり・食品加工産業などの基盤的産業を研究開発から成長投資までを産業支援機関と連携した一貫支援を実施して産業競争力を強化する。
<p>➤ 若者をひきつける未来型産業への挑戦／商工労働部</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 令和5年7月にオープンした鳥取砂丘月面実証フィールド「ルナテラス」に、月面探査車等の開発企業や研究者が来県する流れが生まれ、宇宙関連産業の企業誘致も進みつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● GXやフードテック、医工連携など様々な分野で産学官連携を強化し、大学の研究シーズと企業課題のマッチングや、大学の研究シーズを活用した企業誘致などを進めていく。 ● 宇宙関連産業については、引き続きルナテラスを核に、鳥取大学と連携した人材育成や共同研究、企業誘致を行っていく。
<p>➤ 若い力・新たな力で産業を創造／商工労働部</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 起業を志す者同士が、悩みやアイデアを気軽に共有・相談し、ロールモデルとなる起業家に触れられる場として、起業家コミュニティ「FLAT」を運営するとともに、地域にねざしたビジネスアイデアを持つ起業家を短期集中で伴走支援するアクセラレーションプログラムを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 起業家の発掘や事業化に向けた伴走支援、成長意欲の高い起業家の後押しなど、成長段階に応じた支援を行い、地域課題解決から全国・世界市場への挑戦まで、新たなビジネスにチャレンジする起業家を生み出していくためのエコシステムを構築する。
<p>➤ 地域連携や企業間連携で地域・社会課題解決を推進／商工労働部</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 先駆的なラボやオフィスの地域への誘致を展開してきた。令和7年度当初予算で、市町村との共創により人口減少下での産業維持が困難な地域への立地に向けて取組中。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市町村と連携して、地域の課題・地域資源を活用した企業誘致による課題解決を推進する。 ● 幅広いネットワークを有するハブとなる企業と連携することにより、技術を磨き、新たな需要の獲得のチャレンジを促していく。

11

激動を乗り越える「地域産業の強化」②

現状	今後の方向性
<p>➤ 海外や県外から高度・専門人材の呼び込み／商工労働部</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人材不足が深刻さを増す中、域外からの高度な技術・専門的知識を持った即戦力人材を獲得するため、都市部からの人材確保や高度外国人材の獲得が課題。 ● 副業兼業で都市部の高度ビジネス人材を呼び込む「鳥取県で週1副社長」で、全国トップとなる副業希望者が応募し、マッチング。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 育成就労制度にもらみ、商工団体等と連携し高度外国人材や特定技能外国人の獲得に向けて、海外でのリクルート活動等を促進して、外国人材を呼び込んでいく。 ● 外国人労働者の日本語学習・コミュニケーション等への対応を検討していく。 ● 副業兼業による都市部ビジネス人材の誘致を強化し、人的資源の限られる中小・小規模事業者の経営力向上を効果的に進める。
<p>➤ 外国人材を受け入れる生活環境の整備／輝く鳥取創造本部</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今後増え続けることが見込まれる外国人住民が安心して生活できるため、外国人総合相談窓口の運営や医療・コミュニティ通訳ボランティア派遣、日本語クラスの実施等の支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 従来の取組を他部局や関係団体と連携しながら効果的に実施する。また、今後強化が必要な災害時の支援体制の整備を進めていく。
<p>➤ 農業生産1千億円の達成／農林水産部</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本県農業の活力を維持し、高めていくため平成30年に策定した「農業生産1千億円達成プラン」を令和7年3月に改訂した。 ● 低コストハウスの導入、果樹団地の設置、農産物集出荷施設の機能向上、県オリジナル品種の作付拡大などにより、園芸品目を中心に高単価を維持。米単価も昨年を上回っている。 ● 生産者、農業関係団体、市町村、県が一丸となり、産地プロジェクトに取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 将来の水田農業を支える多様な担い手の育成を図る。 ● 米の生産力向上対策、園芸産地の強化、温暖化対策、畜産振興を推進する。 ● 大阪・関西万博を契機にインド、ベトナム、欧州等の新しいマーケットへの販路拡大に向けた取組を進める。

12

当面のスケジュール(案)

■ 4月25日(金) (本日)

- 「活力と交流でひらく元気なふるさとづくりプロジェクトチーム」キックオフ会議

■ 随時

- 本日の会議結果を踏まえて、方向性を定め具体の取組を開始
- 急がれる課題は、補正予算を活用して、新たな取組に着手
- サブテーマ別の幹事会、部局所管の会議体、関係団体・関係者との意見交換等通じた課題把握と対応

※ 各サブテーマに関連する、各部局が実施又は参加する会議等の資料・名簿・議事録の共有

■ 秋頃

- 進捗状況の共有及び、次年度事業に向けた全体(第2回)会議